

新興・再興感染症対策に必要な 科学技術

厚生労働省 国立感染症研究所長
倉田 毅

新興・再興感染症 (Emerging and re-emerging infectious diseases)

言葉の由来

1992年 米国大統領府が警告



1994年 米国CDCが対応策を作成



1995年 「米国政府・科学技術会議」が報告書作成

1996年 WHO が公式出版物「The World Health Report 1996」で使用



「日米首脳会談」(橋本 - クリントン)の議題となり和訳

1999年 日本では「感染症法」の制定時以降、広く使用



言葉の定義

新興感染症 : 最近20年間(1990年代前半より)に増加してきたか、近い将来に増加するであろう感染症、若しくは新たに認識される感染症

再興感染症 : かつて大きな脅威であった感染症で、いったんは殆ど制圧されたかにみえたが、再び大問題を提起しつつある感染症

新興感染症の具体例

世界における新興感染症の発生日

新興ウイルス感染症

- 1 ウイルス性出血熱
1967 マールブルグ出血熱
1969 ラッサ熱
1976 エボラ出血熱
(1945,1956 クリミア・コンゴ出血熱)
- 2 ウイルス性肝炎
1969 B型肝炎 1973 A型肝炎
1983 E型肝炎 1989 C型肝炎
- 3 ヒトレトロウイルス病
1980 成人T細胞白血病(HTLV-1)
1983 ヒト後天性免疫不全症(HIV-1)
1986 ヒト後天性免疫不全症(HIV-1)
- 4 その他
1978 腎症候性出血熱
1993 ハンタウイルス肺症候群
南米出血熱
1991 ベネズエラ出血熱
1994 ブラジル出血熱
ウイルス性下痢症
1973 ロタ 2002 ノロ
1982 Norwalk virus = 1972
1988 HHV6, 1994 HHV8
1983 ヒトパルボウイルス感染症
1998 ニパウイルス感染症
2003 SARS
1997,2003新型インフルエンザ

新興細菌感染症

- 1961 MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)
1965 肺炎クラミジア
1967 ペニシリン耐性肺炎球菌
1976 レジオネラ症(肺炎)
1982 腸管出血性大腸菌O157
1982 ライム病
1983 ピロリ菌(胃潰瘍)
1985 VREバンコマイシン耐性腸球菌
1992 新型コレラ菌O139

新興リケッチア感染症

- 1992 日本紅斑熱

新興寄生虫感染症

- 1976 クリプトスポリジウム
1986 サイクロスポーラ

日本で発生している新興感染症

O157: 1996年に西日本で世界に例を見ない大流行
現在も毎年4千名程度が感染。

ノロウイルス: カキの生食等で感染。多数の感染者
が発生する我が国の主たる感染症となる。

HIV: 8割が国内感染で、若年層の患者増加が顕著
国内に危機感が薄く、患者増加が強く懸念

E型肝炎: シカ肉、豚肉等の生食で感染。

トリインフルエンザH5N1: 国内養鶏場での発生に
際し、対応従事者が感染(幸い無症状)

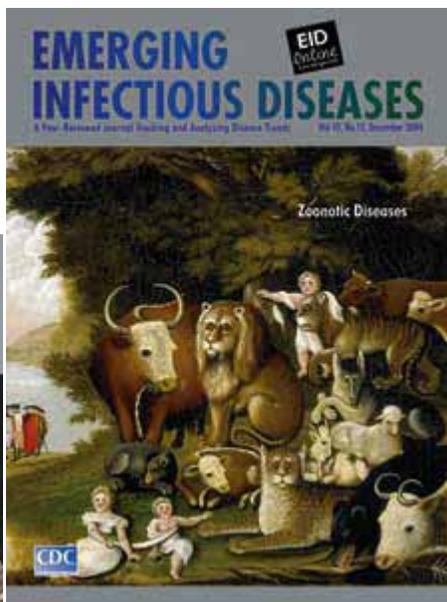
MRSA: 通常無症状だが、医療現場で高齢者等の
易感染者に大問題

新型ヤコブ病: 一例の発生で大きな社会不安

実は新興感染症の多くの病原体が
動物に由来する(動物由来感染症)

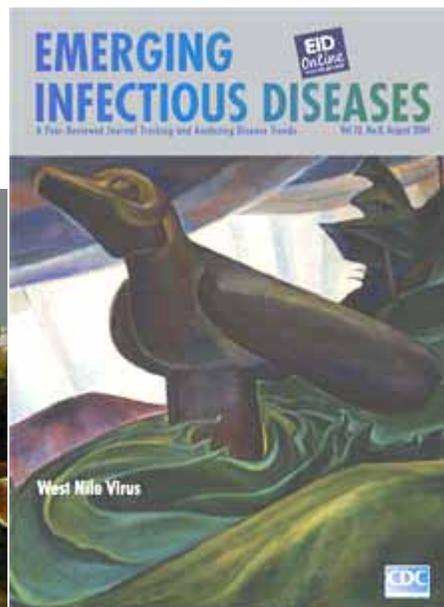
米国CDC発行の「新興感染症」月刊学術誌

“the Emerging Infectious Diseases Journal”



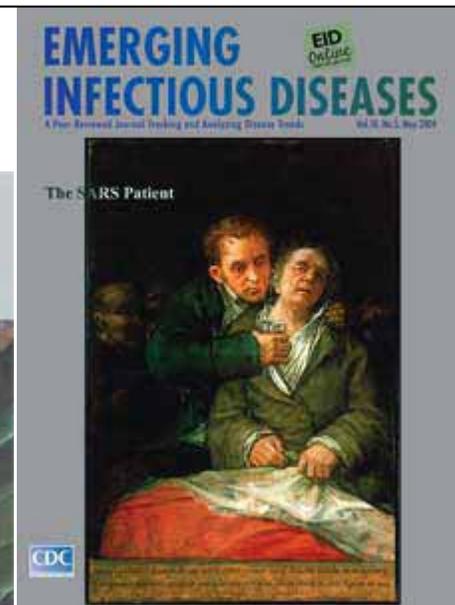
動物由来感染症特集

(2004年10月号)



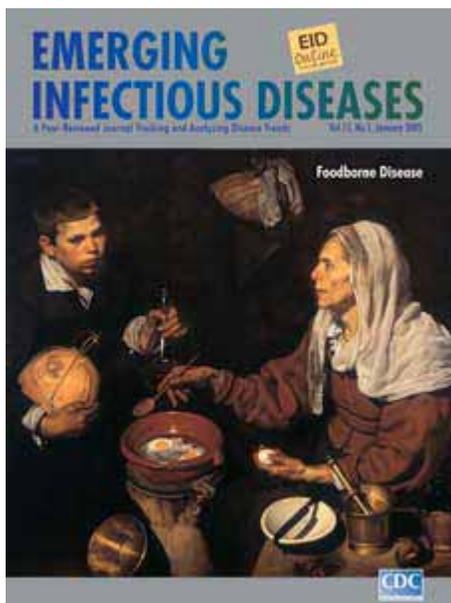
ウエストナイル熱特集

(2004年8月号)



SARS特集

(2004年5月号)



食品由来感染症特集

(2005年1月号)

創刊: 1995年 (2002年より月刊)

購読者: 印刷版約2万部、電子版数10万部

内容: 世界の新興・再興感染症等の最新情報を網羅